

# 高等学校における福祉系・系列のカリキュラム開発

大平 雅子<sup>1</sup>

平成15年度から設置される教科「福祉」の展開にあたり、ふれあい教育の視点を重視して行われてきた神奈川の福祉教育の実践を生かしたカリキュラム開発に取り組んだ。また、現状分析を行い、課題を明らかにするとともに、進路に関する状況を把握し、分析した。

## はじめに

高等学校において平成15年度から実施される新学習指導要領では、教科「福祉」が新たに設置されることになった。中央教育審議会の第二次答申（平成9年）において、高齢社会においては、高齢者を思いやる気持ちやいたわる気持ちなど、豊かな人間性をはぐくむ教育が一層重要となると同時に、これら高齢者、障害のある人々、とりわけ要介護高齢者の自立を支援する能力や技能を持った人材を育成する必要性も一層高いものになっていることが指摘されている。

## 研究の目的

本県の普通科高校においては、これまで、「ふれあい教育の視点」で「福祉」に係わる学習を進めてきた。既に学校設定科目として福祉に関する科目を設定している学校も、これから教科「福祉」に関する科目を設定する学校も、今後は、学習指導要領に沿った指導が求められる。

全国的に見ると、総合学科高校の多くは、専門学科高校が統合される形で発足している。そのため、福祉系についても、明確に介護福祉士の国家試験受験資格や訪問介護員の資格取得を目指してカリキュラムを編成している。本県においては、普通科高校からの改編が主であり、資格取得よりも将来の進路への自覚を深めることを目指して、普通科目及び専門科目の幅広い科目から、主体的に選択して学習できるようにカリキュラムを編成している。そこで、本県の総合学科等で学習する「福祉」科目の学習内容やカリキュラムに関する開発が求められている。また、高等学校で「福祉」を学んだ生徒の進路に関しては、まだ、歴史が浅いため、状況の把握ができていない。そのため、進路状況の現状を分析し、これから「福祉」を学ぶ生徒へのガイダンスの充実が求められている。

これらのことから、本研究では、本県にふさわしい福祉系・系列のカリキュラムの開発と進路に関する資料の作成を試みた。

## 研究の内容

### 1 「社会福祉基礎」「社会福祉援助技術」「社会福祉実習」のシラバス作成

総合学科や単位制高等学校においては、教科「福祉」に関する科目は選択科目として設置されるため、生徒が科目選択の際に判断しやすいよう、情報を提示しなければならない。そこで、本研究では、標記の3科目についてシラバスを作成した。

#### (1) 「社会福祉基礎」

この科目は、専門教科「福祉」における学習の基礎的な科目として、福祉に関する学科においてはすべての生徒に履修させる科目として位置づけられている。2~6単位程度履修することを想定して、内容が構成されている。

本研究では、総合学科における選択科目の設置単位数が2単位が多いこと、本県における総合学科等の設置の特色から、福祉に関する科目を「社会福祉基礎」のみ履修する生徒もいることに配慮する必要がある。そこで、対人援助の基礎である「コミュニケーション」や「レクリエーション」に関しても、基礎的な知識や技術の理解を図る学習内容を加えて構成し、その後の活動に寄与できることを目指し、2単位の履修を想定して指導計画を作成した。この科目の学習を通して、現代社会の特性を理解し、社会福祉の意義や役割を理解すること、社会福祉に関する基礎的な知識を習得すること、体験学習を通して社会福祉の向上を図る能力と積極的な態度を養うこと、社会福祉に関する仕事と資格を理解し、自分の進路と関連させて考えることを目指した。学習活動の特色として、問題解決的な学習活動や福祉の実際に触れるための簡単な体験・実習を盛り込み、学んだ成果を発表する場を設定した。授業の課題や実習の内容を中心に記した年間指導計画の略案を第1表に示す。

1 研究開発課

研修指導主事(兼)指導主事

第1表 「社会福祉基礎」(2単位)年間指導計画

時数	授業の課題や実習の内容
前期	課題 この科目を選択した理由、学びたい内容をまとめよう。
	社会福祉に関するアンケート 調べ学習 50年前・30年前と現代、社会構造、家族形態を調べよう。 グループで家族のライフサイクルのモデルケースを作成。それぞれのライフステージにおける福祉のニーズを話し合おう。 【実習】調べ学習 まとめ 討議】
	養護学校の先生や小学校の特殊学級の先生の話をお聞きしよう。 【外部講師】
	保育士の話をお聞きしよう。 【外部講師】
	訪問介護員の話をお聞きしよう。 【外部講師】
後期	障害者・子ども・高齢者の視点で街を探検してみよう。 バリアフリー度、危険度チェックマップを作成 【実習】計画 校外調査 まとめ 発表】
	障害者施設、保育園、高齢者福祉施設を見学してみよう。(グループで選択) ア グループ分け 目標、計画作成 イ 施設見学(半日程度) ウ 体験のまとめ エ 発表会 【実習】目標・計画 施設見学 まとめ 発表】
	調べ学習 地域の福祉施設を調査してみよう。福祉の仕事と資格を調べよう。調べたことをまとめ、発表しよう。 レポート 「もし自分が福祉の仕事に就くとしたら」半年間学んだことを自分の進路と結びつけて書いてみよう。 【実習】調べ学習 校外調査 まとめ 発表】
	校内介護実習ベッド、寝間着、スプーンを利用。VTRで介護の実際を見てみよう。 (介護の基本理念・介護の技術の基本・衣服の着脱と麻痺について・食事指導とその身体的状況・介護従事者の倫理) 【実習】校内実習】
	グループごとに新聞、テレビなどの生の資料を使って介護の現状を調べよう。 今後の介護の方向についてグループごとに討議し、「今後の介護のあり方」というテーマで発表しよう。 市役所の担当者の話を聞こう。介護保険、在宅介護、地域福祉について学習。質問等も用意。 【外部講師】
ビデオで援助技術の実際を見てみよう。	
手話に挑戦しよう。 【外部講師】 点字に挑戦しよう。 【外部講師】 救急法をマスターしよう 【実習】校内実習】	
レクリエーションをやってみよう。体操・ゲームなど。レクリエーションを創ってみよう。校内で発表してみよう。 【外部講師】 【実習】体験 創作 発表】	

(2) 「社会福祉援助技術」

この科目は、対人援助に関する知識と技術を習得させ、社会福祉援助活動に活用する能力と態度を育てることを目指している。2～6単位程度履修することを想定して、内容が構成されている。本研究では、2単位の履修を想定して指導計画を作成した。この科目の学習を通して、高齢者や障害者の自立生活を支援する援助活動の意義と実際を理解すること、レクリエーションを企画する能力を身に付けること、手話による簡単な日常会話ができること、高齢者、障害者とのコミュニケーションの技法を身に付けることを目指した。学習活動の特色として、問題解決的な学習を多く取り

入れ、体験や実習を重視し、学んだ成果を発表する場を設定した。また、「レクリエーションの考え方と展開」と「手話」は、2分割で行い、少人数での実習も可能となるよう配慮した。授業の課題や実習の内容を中心に記した年間指導計画の略案を第2表に示す。

第2表 社会福祉援助技術(2単位)年間指導計画

時数	授業の課題や実習の内容
前期	オリエンテーション 社会福祉援助活動の目的、年間授業・実施計画説明
	社会福祉援助活動の意義と方法 援助技術の実際を調べてみよう。まとめて発表しよう。特にレクリエーションにはどのようなものがあるか。 【実習】調べ学習 まとめ 発表】
	社会福祉援助の方法と実際 社会福祉施設を見学し、援助のあり方を見てみよう。 外部講師の話をお聞きしよう。 【外部講師】 【実習】目標・計画 施設見学 まとめ 発表】
後期	レクリエーションの考え方と展開 インディアカ、車いすバスケット等を体験してみよう。 ボランティア活動で生かせるレクリエーションを創作し、発表してみよう。 【外部講師】 【実習】校内実習】 【実習】体験・創作・発表】
	手話 手話に挑戦してみよう。自己紹介をしてみよう。 手話で話しかけてみよう。手話で会話してみよう。 【外部講師】 【実習】体験 創作 発表】
後期	点字と救急法 点字に挑戦してみよう。救急法をマスターしよう。 【外部講師】 【実習】校内実習】
	コミュニケーションの技法 外部講師によるロールプレイングを体験してみよう。 絵手紙に挑戦してみよう。ワープロを使ってみよう。 【外部講師】 【実習】体験 創作 作品】

(3) 「社会福祉実習」

この科目は、介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てることを目指している。本来、社会福祉に関する各科目において習得した知識と技術の統合を図ることや介護活動の実践力を身につけること、望ましい職業観・勤労観を育成することがねらいである。本研究では、学校の特徴に配慮した2つの設置の例を検討し、シラバスを作成した。1つは、福祉科及び福祉コースで「社会福祉基礎」や「基礎介護」等の科目を学んできた生徒が履修することを前提にしたもので、訪問介護員(ホームヘルパー)三級養成研修をかねることも可能な内容とした。1年間を通して2日間の施設実習を3回設定したこと、施設実習発表会を設けて実習体験を共有し理解し合う機会を持つことなどが特徴である。また、施設実習を円滑に進めるために、基礎的な介護の技術の実習とコミュニケーション能力の向上を図る内容を盛り込んだ。「社会福祉実習」や体験実習等における評価の難しさが課題となっており、評価規準を設定し、評価方法、評価から評定への総括等について試案を作成した。作成した「社会福祉実習」のシラバスにおける評価の観点については、

第3表に、授業と実習の内容を中心に示した年間指導計画の略案を第4表に記す。

第3表 「社会福祉実習」評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
実習目標を立てて意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	実習において利用者や職員の動きを分析し、適切に判断して行動する能力を身に付けている。	社会福祉実習で求められる基礎的な介護技術やコミュニケーション技術を身に付けている。	実習施設について理解し、これからの課題を解決するための知識を身に付けている。

第4表 社会福祉実習 年間指導計画

\* 太字は評価対象項目、下波線は訪問介護員3級養成研修

時数	授業と実習の内容
前期	<p>(1) オリエンテーション 社会福祉実習の目的、年間授業・実習計画</p> <p>(2) 福祉施設のそれぞれの役割について 近隣の社会福祉施設、病院、保育所等の役割 それぞれの施設における様々なサービス</p> <p><u>(3) 高齢者：障害者への共感的理解と基本的態度</u> 高齢者介護の方法と注意点 障害者との関わり、コミュニケーションの方法 在宅介護の抱える問題</p> <p><u>(4) 介護技術入門1</u> コミュニケーション技術 言語によるコミュニケーションと非言語コミュニケーション、声掛けについて知識を広げる ロールプレイングをしながら課題をさがそう</p> <p><u>(5) 介護技術入門2</u> 移動介助の技術 移動介助の技術を学ぼう 声掛けを覚えよう 発生しやすい事故を学ぶ 最終授業で実技試験</p> <p>(6) <u>施設実習 1 施設をよく知ろう</u> ア、施設別、事前オリエンテーション イ、施設実習の目標作り ウ、施設の職員の役割分担を学ぶ エ、施設実習 2日～5日間（1日目は施設見学） オ、施設実習のまとめと「実習ノート」の完成</p> <p>(7) <u>福祉実習中間発表会 全体反省会</u> 他の班の実習体験を全員で共有する</p>
後期	<p><u>(8) 介護技術入門3</u> 入浴介助・衣類の着脱 麻痺の特性と介護方法を学ぶ 最終授業で実技試験</p> <p>(9) <u>施設実習 2 コミュニケーションをしよう</u> ア、施設実習の目標作り イ、レクリエーションの企画を立てよう ウ、施設実習 2日～5日間 エ、実習のまとめと「実習ノート」の完成</p> <p>(10) コミュニケーション・レクリエーション技術 コミュニケーションの課題を出し合いながら、その克服方法を見出す</p> <p>(11) <u>施設実習 3 施設の運営全般を学ぼう</u> ア、施設実習の目標作り イ、受け入れ準備、掃除、配膳など施設ごとの一日の運営の流れを学ぼう ウ、施設実習 2日～5日間（最終日には反省会） (ウ、訪問介護員3級希望者は、有資格者の同行) エ、実習のまとめと「実習ノート」の完成</p> <p>(12) <u>福祉実習のまとめと反省、全体発表会</u> 一年間の実習の反省をまとめ、発表会を行う</p>

もう一つの例は、系・系列選択やばば広い選択科目の中に設定し、科目としての「社会福祉実習」は置かず、「社会福祉基礎」や「社会福祉援助技術」を体験型の校外福祉実習を中心においた学習内容に構成し直したものである。特色として、体験学習としての福祉実習・保育実習を4回取り入れた点があげられる。

2 介護福祉士国家試験受験資格取得や訪問介護員養成研修とカリキュラム

介護福祉士国家試験受験資格取得のために必要な科目及び単位数は、社会福祉士及び介護福祉法施行規則により規定されている。また、訪問介護員養成研修事業については、訪問介護員に関する省令（厚生労働省）及び各都道府県で作成している実施要項に準拠しなければならない。また、申請に当たって条件が付加されることもあるため、詳細については、各都道府県の担当部局との協議が必要である。

(1) 介護福祉士国家試験受験資格取得の現状と課題

全国的にみると、福祉系の専門学校が少なく、高等学校での国家試験受験資格取得がそのまま役立つことも多い地域では積極的に展開し、また、専門高校からの再編により発足した総合学科等においては、比較的円滑にカリキュラムが運営されている。現在、県立高校においては、二俣川高校福祉科、津久井高校福祉コースが、標記資格取得に向けたカリキュラムを取り入れ、希望者に対応している。カリキュラム運営上の課題としては、修得すべき単位数の多いことにより、普通科目の履修が制限されること、福祉や看護の教員免許所持者が少ないこと、実習受け入れ施設の確保が難しいこと、教材・実習において費用がかかることなどである。

(2) 訪問介護員養成研修の現状と課題

訪問介護員1級の養成研修に関しては、県立高校では津久井高校が実施している。1級課程は、2級課程において習得した知識及び技術を深めるとともに、主任訪問介護員が行う業務に関する知識及び技術を習得することを目的として、2級課程を終了したものを対象として行われるものであり、高度の専門性が求められる。カリキュラム運営上の課題としては、介護福祉士における場合と同様の内容が挙げられる。

訪問介護員2級の養成研修に関しては、全国的にみるとかなり多くの高校で行っている。想定される対応科目は、「基礎介護」または「社会福祉基礎」（2単位）、「社会福祉実習」（2単位）、「基礎看護医学」（2単位）、「家庭総合」（2単位）である。実習の時間や修得すべき単位数も少ないので、比較的カリキュラムの中に組み込みやすい。カリキュラム運営上の課題としては、おおむね8ヶ月以内に実施するという制約があるため、関連科目の集中履修と授業内容の調整が必要であること、養成研修修了認定の基準の客観性を高めること、実習費・交通費・保険等に関わり費用がかかることなどが挙げられる。また、高校生の場合、生活経験の不足から訪問介護員の主な業務である家事援助と身体介護については、より一層、研修内容を充実させる必要がある。

訪問介護員3級養成研修については、県内では実施されていないが、全国では150校以上の高校において

実施されている。社会福祉施設等への直接の就職にはあまり役立たないが、「入門研修」として、福祉への関心をもたせる、福祉学習へのモチベーションを高める、また福祉以外の進路を選ぶ生徒がボランティア活動などの形で福祉に関わっていく上で生かせるなどの点で、総合学科などでは、今後、導入を検討する意味があると考えられる。研修内容、実習時間からみても、おおむね4ヶ月以内という制約はあるものの、無理なくカリキュラムが組める。本研究では、3年次の前期で履修できるよう、「社会福祉基礎」(2単位)と「社会福祉実習」(2単位)で対応する試案を作成した。

### 3 高校で「福祉」を学んだ生徒の進路について

#### (1) 学校の特色に応じた進路の状況について

ア 資格取得を目指す学校(専門的な職業人の養成を目指すタイプ)

卒業までに介護福祉士国家試験受験資格や訪問介護員1級及び2級の取得を目標に、カリキュラムが編成されている。平成14年度に初めての福祉科の卒業生を出す二俣川高等学校においては、大学・短大・専門学校への進学希望者が増加している。津久井高等学校においては、特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問介護などの福祉関係や医療関係への就職が多い。

イ 福祉に関するコースを設置する学校(資格取得を前提にしないタイプ)

高齢社会、共生社会の中で地域を支える役割を自覚し、福祉の心を知るとともに、自分の生き方や希望を実現するために福祉を学ぶ。系統的に福祉科目を学習し、より高度な知識・技術を身に付け、進路の実現に結びつける学校もあるが、「総合的な学習の時間」に位置づけ、多くの生徒に「生き方として学ぶ福祉」を目指す学校もある。「福祉の心」を学び、体験を通じて得た興味・関心を進路に結びつける生徒も多い。ボランティア活動体験等から幼児教育や幼児保育の道に進む生徒が増加している。進学先としては、福祉・幼児教育・保育・社会学等の大学、福祉・看護・初等教育・幼児教育・保育等の短大、介護・医療・看護・幼児教育・保育等の専門学校がある。

ウ 総合学科等で「福祉」を設置する学校(主に福祉関係への進路を考えるタイプ)

将来、福祉に関する仕事を希望する生徒に、基礎的な福祉教育を行い、福祉全般への関心と理解を深める。本県における総合学科では、生徒個々が、興味・関心の高い科目を選択履修するために、「福祉系」という明確な分類は難しい。これからの調査が待たれる分野である。

#### (2) 進学の状況

福祉に関連した大学、短大、専門学校など様々な選択肢がある。福祉系の大学は比較的歴史の浅い学校が多い。推薦入試等を実施している学校においては「福

祉」科目履修を要件としている場合もある。進学傾向において、従来からの福祉の概念にとらわれない新しい資格や在宅介護関連、介護用品等の開発など、様々な仕事を目指すものも増えてきている。

#### (3) 就職の状況

資格を取得した生徒を対象にした求人は一部あるが、無資格者に対する福祉分野の求人は少ない。介護保険法が始まり、福祉サービスに参入する企業が増加している。採用後に研修を行い、きめ細かい福祉サービスに対応できるよう社員の育成に努めている企業もあり、今後は、このような企業への就職が増加すると思われる。

### 研究のまとめ

本研究では、本県の総合学科等での展開にふさわしい「社会福祉基礎」「社会福祉援助技術」「社会福祉実習」のシラバスの作成と、資格取得養成研修に関する現状と課題をまとめ、高校で「福祉」を学んだ生徒を対象に進路に関する現状分析を行った。作成したシラバスや指導計画、収集した資料等については、研究報告書としてまとめ、カリキュラム開発センターに収める予定である。

### おわりに

本研究においては、6名の調査研究協力員の協力により研究を深めることができた。先進校や総合学科再編対象校の先生方であることから、現状や課題をより深く認識し、よりよいカリキュラムを創造することができた。研究成果を今後の取組に役立てていただければ幸いである。

#### [ 調査研究協力員 ]

県立久里浜高等学校	井出 宏
県立綾瀬西高等学校	笹谷 幸司
県立柿生高等学校	額田 豊一
県立東金沢高等学校	新倉 京子
県立二俣川高等学校	保坂 和子
県立津久井高等学校	村山 哲也

### 参考文献

文部省 平成12年『高等学校学習指導要領解説 福祉編』実教出版株式会社